

葦 森 の 風

23年度スタート

東日本大震災の悲しい報道が続く中で、本年度の入学式が挙行されました。69名の元気な新1年生を迎えることが出来ました。被害に遭われた人達への思いがこもった新入生代表水田美穂さんの挨拶は感慨深い立派なものでした。

本年度は足守地区の新しい学校づくりの一環として、大井小学校の跡地に中学校が臨時的に移転する予定です。生徒のみなさんにとって、不安や不便を感じる場面があるかも知れませんが、それにまさるような学力を身につけ、心に残る温かな思い出をつくっていくことができるように、我々職員も全力で取り組んでいきたいと思っています。



足守中学校 地域協働学校 運営協議会

岡山市が規則によって定める地域協働学校の趣旨を紹介します。

『第1条 岡山市地域協働学校(以下「地域協働学校」という。)は、保護者及び地域住民の学校運営への参画を進めることにより、教職員・保護者・地域住民の信頼関係を深めるとともに、学校・家庭・地域社会の役割と責任を明確にしながら教育力を相互に高め、共に連携して子どもたちの豊かな学びと育ちを実現することを目的とする。』となっています。

足守中学校第1回運営協議会 4月26日19:00～

平成23年度足守中学校の「教育基本計画」「教育課程編成」「校務分掌」「教職員組織」「学校経営計画」および『協同学習』の推進等の教育課程全般について、協議が持たれ、承認されました。

また、本年度は、2ヶ月に1回[年間6回以上]の会議を開催することが決まり、学校や生徒の様子が細かく報告され、協議されることを目指していきます。

協議会委員の方々には、大変重い『守秘義務』が課せられておりますので、心身共に厳しい状況の中で、協議をお願いすることになります。よろしくお願いいたします。



足守中学校運営協議会 後藤晴美会長の提言

「課題に立ち向かう姿勢」

時々耳にする事で、最近の若者(児童も含めて)の中には、何か課題を与えられたり、問題に突き当たると、まず出てくる言葉が、「そんなことはできない」とか「そんなことは無理だ」という否定、あきらめの言葉が出てくることが多いというのである。「こうしたらできそうだ」「こんな方法があるかもしれない」といった、まず、なんとかかやってみようという気持ちが弱いというのである。人生には、程度の差や年代によつての違いはあっても、課題は常についてくる。それを安易にさけて楽な方法に流されると、人間としての高まりも、生きる喜びも弱くなってしまうのではなからうか。



【後藤晴美会長】

先日テレビで、アンピリーバボー「勇気をもらえる超奇跡SP」という番組の中で、生まれつき両手両足のない人の紹介があった。その人は、健常者では想像もできない努力と頑張りの結果、生きる喜びと誇りを持てるようになった。その体験をいろんなところで話す時、必ず言うことがあるという。それは「決して、絶対に、永遠にあきらめない」ということである。世の中で成功した人や、偉大な功績を残した人たちは、この精神と姿勢を持ち続けた結果であろう。

今、この足守中学校区の教育を取り巻く環境は大きな転換期を迎えている。形や内容が変わる以上、課題や問題は当然出てくる。それらを安易な方法で避けるのではなく、どうしたら子供たちにとって望ましい教育環境や内容になるのかを考えていくことが大切である。地域が丸となって、より良い教育の構築に向けて、頑張っていきたいものである。

【23年度足守中学校運営協議会委員】



副会長
川崎昌宏氏



プラザ大井館長
田村雅計氏



大井地区
御船宗一郎氏



福谷地区
水田真吾氏



足守地区
光森哲也氏



足中校長
津川倫郎



足中教頭
中桐伸一